

孀 恋 巡 検

藤 本 裕 子

夏休みも終わりに迫った9月5日、私達1年生は休み気分のぬけないまま、JR吾妻線万座・鹿沢口駅に集合した。日本一のキャベツ生産を誇る孀恋村が、私達の最初の巡検地であった。地理学科の特色である巡検を初めて行うので、期待と不安が入り混じったままのスタートであった。

農業優先の為ほとんど信号がない道路の他は、周りがすべてキャベツの中を、宿舍の御主人に車を運転していただき、孀恋村の中で最も人口が多い田代地区の予冷庫へ向かった。キャベツを真空予冷することにより、成長が止まり害虫防止になるのだそうだ。また、発酵作用を止め腐敗を防ぐ為、鮮度を保つことができるということであった。

一旦、宿舍に戻って昼食をとった後、同じ田代地区の黒岩さん宅を訪問した。綺麗な庭を見せていただいてから畑に行き、孀恋村におけるキャベツの歴史や、現在の栽培方法と問題点についてお話を伺った。

これまで昼食時以外、戸外にいて寒い思いをしていた私達は、次の群馬県農業総合試験場高冷地分場で暖かい部屋に通されて座ることができ、その上、熱いお茶までいただき、ほっと一息つけた。ここでは高冷地野菜の土壌病害防除や新作物開発に関する研究を行っている。私達はキャベツやスイートコーンなどの優良品種を選定する為の畑を見学し、1日目の日程を終えた。

2日目の最初は、村営の孀恋スキー場があるバラギ高原を訪れた。この日の午前中は天気がよかったので、半袖を着ている人が多かったのだが、県立青少年野外活動センターの方の話によると、バラギ高原はかなり高地である為、紫外線が強く、長袖・長ズボンのほうが好ましいそうだ。

その後、農林水産省管轄の種苗管理センター孀恋農場を見学した。本部は筑波研究学園都市にあり、孀恋農場は全国13農場のうちの1つである。ここでは全国で唯一、153種の馬鈴薯の遺伝資源を全種、保存・増殖しており、厳格な管理の下で高い技術を駆使し、健全・無病の馬鈴薯原産種の生産・配布を行っている。その生産方法に関する

スライドを見せていただいた。馬鈴薯は単価が安い為、国営農場の労力がなければ経済ベースにならないそうである。植物はすべて単なる種が元だと思っていた私は、まだその前の段階で、採種は産種子、原種、原原種とあることに驚いた。

種苗管理センターを後にし、浅間白根火山ルート沿いにあるお店で、釜飯とキャベツのみお皿にたっぷり盛ってあるサラダを食べた。宿舍でも食事には必ずキャベツが出ていたので、やはり孀恋＝キャベツなんだなあ、と皆で感心してしまった。

昼食の後、孀恋村歴史民俗資料館を見学した。入口で一般教育の地質・鉱物の講義をなさっている荒牧先生のお名前をお見かけした。意外な場所でのつながりに嬉しく思った。館内には、発掘出土品・収集資料・研究成果品を展示しており、これらが天明3年の浅間山の爆発、旧鎌原村の歴史を物語っている。

歴史民俗資料館から少し歩いた所に鎌原観音堂がある。この観音堂は150段の石段を登った所であったと言われ、天明3年旧暦7月8日に突然襲った噴火の熱泥流の為、鎌原集落はその中に消え15段の石段と観音堂とここに居た人だけが生き残ったそうだ。小高い丘の上に建っており、鎌原村を上から見守っているような感じであった。

そして最後に鬼押出し園を見学した。ここも天明3年の爆発の際、噴出した溶岩が冷え固まって形成されたものである。鬼押出しは世界3大奇勝の1つに数えられ、浅間高原随一の名勝となっている。午前中とは違ってかわって午後は天気がくずれた為、浅間山をぼんやりとしか見ることができなかったが、晴れていたらきっと素晴らしい景色であっただろう。

こうして振り返ってみると、初めての巡検ということで要領が悪く、内藤先生にはずい分御迷惑をおかけしたと思う。しかし不慣れながらも実際にフィールドワークを経験したことにより、大げさかも知れないが、これからの地理の学習において視野が広がったのではないかと思った。

(9月5～6日内藤教官指導)